

★ ネギのべと病 情報

ネギでべと病の発生を確認しています。
今後の発生動向に注意してください。

農林センター環境部では昨年11月から京都府南部（山城及び南丹地域）で、約7日間隔でネギべと病発病調査を実施しています。

山城地域で1月上旬に発生を認め、1月27日現在、山城地域の調査ほ場（27ほ場）の7.4%で発生を確認しています。

大阪管区気象台が1月23日に発表した「近畿地方の向こう1か月の気象予報」では「気温は平年比高く、降水量は平年比多く、日照時間は太平洋側では平年比少なく、日本海側ではほぼ平年並。」と予想されていることから、ネギべと病の発生はさらに増加するものと思われます。今後の発生に十分注意してください。

●ネギべと病の発生

表1 ネギべと病の発生推移

令和元年12月～令和2年1月

調査地域	調査日	12/4	12/11	12/18	12/25	1/9	1/17	1/27
南丹	調査ほ場数	7	7	6	4	4	8	8
	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	発生ほ場率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山城	調査ほ場数	16	14	17	13	21	20	27
	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.40	0.19
	発生ほ場率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	5.0	7.4

*1ほ場当たり100株調査

●防除上の注意事項

- 平均気温が15～20℃前後で、降雨の多いときに発生が多くなるので、曇雨天が続く場合は、発生に注意する。
- ほ場の水はけの悪い箇所から本病が発生しやすくなるので、排水に努める。
- 被害葉は、今後の発生源となるので、収穫後の被害葉は集めてほ場外に持ち出し、土中深くに埋めて処分したり、古ビニル等で被覆し胞子の飛散を防ぐ。
- ネギべと病の薬剤散布は
 - 平成31年3月15日付け病虫害発生予察注意報第1号
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h31tyuihol.pdf>
を参考に、発病前や発生初期から定期的に登録のある殺菌剤を散布し、まん延（二次伝染）防止に努める。
 - また、使用薬剤は異なる系統のものを使い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)